

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2011年4月～2012年3月

国名：日本

※今年度の年次報告書は担当者の名前やメールアドレスなどは伏せた形で冊子やHP上で公表する可能性があります。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 担当者

—

2. 学校概要

学校名 奈良市立佐保小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒630-8113

奈良市法連町 280-1

E-mail : saho-e@naracity.ed.jp

Website : www.naracity.ed.jp/saho-e/

児童生徒数：男子 197名 女子 161名 合計 358名

児童・生徒の年齢 7歳～12歳

3. 実施活動（下記から選択し、ESDについては活動した分野に○をして下さい。）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
 持続発展教育 (ESD) (○国際理解 ○世界遺産 ○平和・人権 ○環境
気候変動
生物多様性 エネルギー 防災 食育 伝統文化 そのほか ())
 そのほか ()

4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

【5年】

○世界遺産学習

事前学習

- ・『奈良大好き世界遺産学習』を使って、世界遺産の概要について学習する
- ・外国語活動の時間を使って、インタビューの内容について考え、練習した。
- ・外国人観光客にプレゼントする「世界遺産しおり」を作った。

現地学習

- ・ボランティアガイドさんの説明を受けながら、興福寺、国立博物館、東大寺などを見学した。
- ・東大寺で、外国人観光客に、どこの国から来たか、奈良に来た感想、奈良でお気に入りの世界遺産などについて、インタビューを行った。

事後学習

- ・世界遺産新聞を作って、学習した内容をまとめた。（添付資料）
- ・ボランティアガイドさんにお礼の手紙を書いた。

○ビオトープづくり

- ・佐保川の観察を行い、観察の仕方や、水質と生物との関係、外来種の危険性などについて学習した。
- ・ビオトープの構想を考え、絵で表した。
- ・ビオトープとはどういうものを学び、生態系や、食物連鎖について理解を深めた。
- ・ビオトープ池の観察を、四季を通して行った。
- ・ビオトープ池に流れ込むせせらぎをつくった。
- ・それぞれでビオトープに関連するテーマを決め、調べ学習を行った。
- ・調べた内容をレポートにまとめ、保護者に発信した。
- ・ビオトープを守るために、大新聞を作り、全校に発信した。



【6年】

世界遺産学習

「燈花会」を題に教材を自主作成し、燈花会を催す人の気持ちを理解することで、自らも奈良を愛し、奈良の世界遺産、地域遺産を奉仕的に守ろうとする姿勢を養った。

1. 学習活動の概要 * 燈花会CD使用<CD>

	学習活動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点
導入	1. 燈花会について知る。	○燈花会のことはしていますか。	・燈花会を知らない児童のためにも簡単な補足説明を行う。<CD>
展開	2. 「燈花会」を読み話し合う。	○終わったばかりの○○なのに、もう楽しみになっています。こんな経験はないか考えてみよう。 ・誕生会 ・運動会 →なぜかな? : 楽しいから ○あきの燈花会に対する気持ちの変化を考えてみよう。 ・何度もつぶやき立ち止まりました。 ・とてもきれいでした。 ・「楽しんでいって下さいね。」 ○あきのふしぎはどんな解決をしたのか考えよう。 ◎最後の一文からあきはどんなことが楽しみなのか考えてみよう。 ○あきのような経験をしたことがないか考えてみよう。	・身近なことで思い浮かべられるようにする。 ・トークの体系を変えながら活発な意見交流ができるようにする。 ・最後の写真の意味を知らせる。 ・最初にあげたみんなの経験との違いに気づくことができるようにする。
終末	3. 教師の話を聞く。		・余韻が残るようにする。

2. 成果と課題

<成果>

奈良公園から近い校区ではあるが、燈花会を知っていても見に行ったことがある児童は半数程であり、実際にボランティアとして参加したことがある児童は5人という実情であった。そのため学習を終えて、来年は見に行きたいと感じてもらえた児童が増えたことは、将来に渡り実際にボランティアに参加しようとする気持ちのきっかけになるものと考えられることから、意義のある学習、テーマ設定であったと感ずる。

☆児童の感想＊抜粋

A：関わる人たちの力（ヒューマンパワー）から生まれる新たな奈良の伝統行事が生まれる喜び

- ・ぼくは毎年とまではいかないけれど、燈花会を見に行ったりします。けれども沢山の人々の苦勞が会ったのだと知り驚きました。
- ・いろいろな人たちの苦勞があって行われている燈花会はすごく誇りに思いました。

B：関わる人たちの間で生まれる素晴らしいつながりを知る

- ・わたしは燈花会に行ってボランティアをしたことがあります。腰が痛く汗もできました。あきがまたやりたいと思ったのは、他の人に「ありがとう」と言ってもらえたり、自分でもきれいなあと思えるような燈花会への関わりをしたからだと思います。その関わりの中で、色々教えてもらったおじさんに帰り際声をかけられたのはすごく偉いことだと思いました。わたしだったら親切にしてもらっても、恥ずかしくて黙っていたり、小さい声で「ありがとう」と言うだけしか出来ないと思うので、あきを見習ってちゃんとお礼を言えるようになりたいです。そして燈花会の会が「会う」なのは、人と人が「会い」、人と人の心も「会う」ような心温まる行事だからだと思いました。燈花会という行事はとていい行事だと思います。
- ・燈花会の学習から、人は人にささえられ生きているのだなあと思いました。

C：自らも積極的に社会の奉仕作業に積極的に参加し役立とうとする

- ・ぼくは何度かお父さんとボランティアに参加したことがあります。その中であきと同じように「ありがとう」「がんばっているなあ」といわれ、とてもがんばれる気になりました。だからまた来年も参加し、たくさんの人に声をかけられたいと思います。
- ・カップに火がともっている道を歩いたときに、「きれいなあ。」「輝いて見えるなね。」と言ったことがあります。そんなふうに思えるのは、この文章のあきはじめボランティアの方たちの苦勞の結果だとわかりました。これからは自分自身も燈花会のボランティアに参加し、多くの人たちに喜んでもらい、奈良を好きになってもらおうと思いました。
- ・あきは最初は後悔していたけれど、一生懸命に頑張ったから燈花会がきれいにみえたのかなと思いました。このことからこのようにボランティア等なんでも一生懸命に頑張ったらいいことがあるんだなあと思いました。わたしも

何かに参加してみたいです。

- ・あきが頑張った事で「ありがとう」と言われたのはいいことだし、また行きたいと思えるのはすごいなと思いました。わたしも一度燈花会のボランティアに行きたいです。
- ・ぼくは燈花会に毎年行っているけれど、あきのような立場に関わった事はありません。また燈花会以外でもボランティアはやったこともありません。この学習から、ボランティアなど人の役にたった時、あきの様な気持ちをもてるのかなと思いました。ぼくも一度ボランティア等をしてみたいと思いました。

わたしは、あきが色々な人の声かけによりがんばれた事がすごいなと思いました。東大寺などの世界遺産も色々な人の苦労があるから世界遺産になれたのだと感じました。これからも守り続けたいと思いました。

平和学習

修学旅行を機に、身近な事にもスポットをあてながら学習を進めた。

① 歌「誓おう 平和を」

→学年集会で歌詞の意味を紹介し、音楽の時間に歌の練習を行う。

② 佐々木貞子さんの話：千羽鶴を折る

→「命道宝」を読む。戦争の恐ろしさ・悲惨さを知る。

*10月1日より10日間、朝の時間に願いを込め1つつ折る。

折り紙に言葉を書き込む。

③ 「あおぎり」

→なかまの教科書にある「あおぎり」を読み、沼田さんの映像から更に原爆の恐ろしさを知る。

④ 「ざわわ」

→「ざわわ」や、ひめゆりの塔の映像より、広島以外での戦争を知る。

⑤ 「静ちゃんの手紙」

→大石清伍長の手紙・映像より、当時の人々がどんな気持ちで生活していたのかを知る。

⑥ 吉田体育堂さんの語り

→神戸で空襲に遭われた吉田さん（吉田体育堂）の語りを聞き、身近に住む方にも戦争によりつらい思いを経験された方がおられた事を知る。

⑦ フィールドワーク：西方寺防空壕へ

→西方寺防空壕を見学し身近な場所にも戦争の爪痕があることを知る。

<160年桜・佐保小学校の校庭にも焼夷弾が落ちた事実も共に確認。>

